

一聞提の因なり。衆生をして此の法を捨てしむるを為の故に」文論。謗法の相貌は此の法を捨てしむるが

故なり。選択集は人をして法華經を捨てしむる書に非ずや。「閑抛」の二字は仏性論の「憎背」の二字に

非ずや。亦法華經誹謗の相貌は四十余年の諸經の如く小善成仏を以て別時意趣と定むる等なり。故に天

台の釈に云く、「若し小善成仏を信ぜずんば、則ち世間の仏種を断ずるなり」と。妙楽重ねて此の義を

宣べて云く、「此の經は遍く六道の仏種を開す。若し此の經を謗せば義断に當るなり」と。釈迦・多宝・

十方の諸仏、天親・天台・妙楽の意の如くんば、源空は謗法の者なり。所詮 選択集の意は人をして法

華・真言を捨てしめんと定め書し了んぬ。謗法の義疑い無き者なり。

大文の第三に選択集謗法の縁起を出さば、問うて云く、何れの証拠を以て源空を謗法の者と称するや。

答えて云く、選択集の現文を見るに一代聖教を以て二に分つ。一には聖道・難行・雜行、二には淨土

・易行・正行なり。其の中に聖・難・雜と云うは、華嚴・阿含・方等・般若・法華・涅槃・大日經等

なり意を。淨・易・正と云うは、淨土三部經の称名念佛等なり意を。聖・難・雜の失を判ずるには、末代

の凡夫之を行ぜば百の時に希に一、二を得、千の時に希に三、五を得ん、或は千が中に一も無し、或は

群賊・惡衆・邪見・惡見・邪雜の人等と定むるなり。淨・易・正の得を判ずるには、末代の凡夫之を行

ぜば十は即ち十生し、百は即ち百生せん等なり。謗法の邪義是なり。

問うて云く、一代聖教を聖道淨土・難行易行・正行雜行と分つ。其の中に難・聖・雜を以て時機不相

応と称すること但源空一人の新義に非ず。曇鸞・道綽・善導の三師の義なり。此亦此等の大師の私の按